
2. 調査計画のブラッシュアップの検討

■環境モニタリング調査計画の妥当性①



以下に、今回の環境モニタリング調査結果を踏まえた、調査計画の妥当性について整理する。

調査名	調査結果及び調査計画の評価	調査目的	調査の方向性
水質	<p><u>□調査結果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、吉野川渡河部の河川側・海側に係わらず、ほぼ同様な特徴をもった水質であることが確認された。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	<p>下部工施工により懸念される、周辺水域と海苔養殖場の水質汚濁の監視。</p>	<p>継続実施</p>
地形	<p><u>□調査結果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、調査範囲の地形変化を把握していくために必要な地形図が作成されたと考えられる。 <p>※考察 過去の地形図との比較から、全体的に大きく地形が変化する状況が確認された（自然のゆらぎ）。</p> <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査範囲（自然による地形変動及び橋脚による地形変動を監視するための範囲設定）の地形測定ができており、現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 <p>調査範囲 ⇒ 見直しなし 測線間隔 ⇒ 見直しなし</p>	<p>橋脚の存在による流況変化によって生じる地形変化の監視。</p>	<p>継続実施</p>

調査名	調査結果及び調査計画の評価	調査目的	調査の方向性
<p>底生生物・底質</p>	<p>【潮下帯定量調査】</p> <p>□調査結果</p> <p>【底質】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、格子内外において地盤高T.P.-7.5m～-1.0m程度の底質を確認し、全体的に砂質であることが確認された。 <p>【底生生物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、71種の底生動物が確認された。 <p>※考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の予備調査（H25.6）との比較から、左岸側みお筋部が出水による洗掘によって泥質から砂質に変わることが確認されており、出水の影響を受けることが推察される。 ・また、全体的に底質環境は砂質であり、砂質に生息する底生動物が多い傾向が確認された。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査範囲（自然による地形変動及び橋脚による地形変動を監視する範囲）の底質変化及び底生生物の生息状況を適切に調査しており、現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	<p>橋脚の存在により懸念される、潮下帯の底生動物への影響監視として以下に着目。</p> <p>①橋脚の存在による地形変動が予測される範囲（格子内）の生息環境と生息状況</p> <p>②自然変動の範囲（バックアップ領域）の生息環境と生息状況</p> <p>⇒地形変動が予測される範囲に生息する底生動物が、自然変動の範囲に生息しているか確認する。</p>	<p>継続実施</p>

調査名	調査結果及び調査計画の評価	調査目的	調査の方向性
底生生物・底質	<p>【潮間帯定量調査】</p> <p>□調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、底質が砂質で、底生動物は少なかった。 <p>※考察</p> <p>今回調査結果は、平成26年8月の大出水によって河口干潟が攪乱されたことにより、底生動物が少ないと考えられる。</p> <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	橋脚の存在により懸念される、潮間帯の底生動物への影響監視。	継続実施
	<p>【付着生物調査（消波ブロック部）】</p> <p>□調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、水面より浅い箇所では藻が付着し、その下に底生動物が付着している状況が確認された。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	下部工施工により懸念される、渡河部周辺の消波ブロックに付着する生物への影響監視。	継続実施

調査名	調査結果及び調査計画の評価	調査目的	調査の方向性
鳥類	<p>【飛翔状況調査】</p> <p>□調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、目視観察とレーダー観測によって、吉野川渡河部を通過した種とその飛翔位置を把握できることが確認された（9月の昼間の調査）。 ・9月の昼間のシギ・チドリ類は、右岸部の高度2m以下を多く飛翔している状況を確認した。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間の飛翔状況は、目視観察に対して93%の精度で高度観測数を捉えており、現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	<p>橋梁の存在によって懸念されるシギ・チドリ類の飛来状況の影響監視として以下に着目。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①橋梁の存在に伴う、鳥類の飛翔状況の変化 ②河口干潟・住吉干潟における鳥類の出現状況の変化 ③日本全国及び徳島県（吉野川河口）におけるシギ・チドリ類の出現状況の変化 	<p>継続実施</p> <p>※③に関しては、環境省のモニタリングサイト1000の公開状況を踏まえて適宜実施。</p>

■環境モニタリング調査計画の妥当性⑤

調査名	調査結果及び調査計画の評価	調査目的	調査の方向性
鳥類	<p>【生息状況調査】</p> <p>□調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、吉野川河口域における9月の昼間の出現個体数、採餌個体数、休息個体数を観察することにより、シギ・チドリ類の生息状況と行動を把握できることが確認された。 ・9月の昼間のシギ・チドリ類は、満潮前後にマリンピア沖洲人工海浜で休息し、干潮前後に干潟へ移動して採餌する種と、人工海浜と小松海岸で休息する種が確認された。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口域におけるシギ、チドリ類の昼間の行動を捉えており、現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	<p>橋梁の存在によって懸念されるシギ・チドリ類の飛来状況の影響監視として以下に着目。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①橋梁の存在に伴う、鳥類の飛翔状況の変化 ②河口干潟・住吉干潟における鳥類の出現状況の変化 ③日本全国及び徳島県（吉野川河口）におけるシギ・チドリ類の出現状況の変化 	<p>継続実施</p> <p>※③に関しては、環境省のモニタリングサイト1000の公開状況を踏まえて適宜実施。</p>
魚類	<p>□調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果では、吉野川渡河部周辺で普遍的な種の魚類の生息が確認された。 <p>■調査計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現調査計画による継続実施が妥当と考えられる。 	<p>橋梁の存在により懸念される、魚類の出現状況の影響監視。</p>	<p>継続実施</p>